

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート（グレーのセルに記載してください。）

授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択):				年度/期:	
担当:					
学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> 映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 視覚的な例題・課題を提示する。 		
	A-2. 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。 		
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化つけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。 		
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。 		
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ロールモデルの提示としてゲストスピーカや卒業生の講演を取り入れる。 		
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 日常的に使うシステムの話題を提示する。 		
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 講義の目的等を主要トピック毎に提示する。 		
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> プログラム、コンテンツ、模型など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。 		
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	<ul style="list-style-type: none"> 期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身についたことを実感させる。 		
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。 		
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。 		
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 レポートなどについても採点基準を示す。 		

Ver. 20131218

【記入上の注意】

左から3列目の設問に対して現状を記載してください。授業によっては該当しない項目があります。その場合には空欄のままでも構いません。

【記入上の注意】

すべての項目について新たな取組をする必要はありません。

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート

授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択):	オペレーションズリサーチ、2年、40~50名、選択	
担当:	野々部宏司	年度/期: 2013年度D期

学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> 映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 視覚的な例題・課題を提示する。 	説明のほとんどは文字・数式によるものである。	応用事例の説明等において関連画像・動画を示すことを検討する。
	A-2. 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。 	基礎的な練習問題に加え、演習課題を課すようにしている。	
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。 	各回の授業を、説明→練習問題→補足説明→演習を繰り返す形式で行っている。期を通じての変化はほとんどない。	時間的な余裕があれば、復習を兼ねて演習や応用課題に取り組むだけの回を設定する。
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。 	学科の理念・求める人材像と結び付けてはいるが、履修学生のニーズは把握できていない。	アンケートの実施を検討する。
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ロールモデルの提示としてゲストスピーカーや卒業生の講演を取り入れる。 	目的を持たない学生については、成績評価のみが主な動機づけとなっている可能性がある。	
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 日常的に使うシステムの話術を提示する。 	例題として、できるだけわかりやすい身近な問題を取り上げるようにはしている。	
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 講義の目的等を主要トピック毎に提示する。 	授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明するようにはしている。どのレベルまでの理解・習得することを要求しているかルーブリックを用いて提示し	
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> プログラム、コンテンツ、模型など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。 	演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与えている。	
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	<ul style="list-style-type: none"> 期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身についたことを実感させる。 	期の終わりに、授業の振り返りをさせている。	
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。 	演習課題を課しているが、内発的な興味に繋がるレベルかどうかは把握していない。	必要に応じて応用課題を課す。
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。 	提出物の評価をフィードバックしている。	優れた提出物を授業内で紹介する。
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 レポートなどについても採点基準を示す。 	成績評価基準やルーブリックを示している。課題やテストは簡単なコメントとともに結果をフィードバックしている。	

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート

授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択):	コンピュータ・サイエンス論, デザイン工学研究科1年, 13名, 選択	
担当:	常盤 祐司	年度/期: 2013年度秋学期

学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> 映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 視覚的な例題・課題を提示する。 	初回授業においてビデオを利用した説明が一切なかった。	YouTubeにある関連ビデオを出典を明らかにして参照して説明を行う。
	A-2. 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。 	教員がテーマを提示するのではなく、学生が自身で決められる自由課題を与えている。	
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化つけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。 	知識の伝達、学生による報告、実習など回ごとに異なる授業としている。	
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。 	昨年度までは確認をしていなかった。	初回時授業にてアンケートをとる。
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ロールモデルの提示としてゲストスピーカーや卒業生の講演を取り入れる。 	昨年度までは特に動機づけをすることをしていた。	自由課題のテーマを決める際に、アンケートで得られたゴールに関連する提案を学生にする。
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 日常的に使うシステムの話術を提示する。 	自由課題のテーマとして日常的に利用するシステムを選択している。	
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 講義の目的等を主要トピック毎に提示する。 	昨年度末に実施した履修者によるラーニングポートフォリオの項目を提示することになっている。	
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> プログラム、コンテンツ、模型など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。 	自身で提案したテーマについて8回目までの前半に課題点を検討させ、それを後半で解決する授業としている。	
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	<ul style="list-style-type: none"> 期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身についたことを実感させる。 	10回目に最終課題のチェックポイントレビューを行い、検討すべき範囲を達成可能なレベルに調整する。	
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。 	ユーザとして利用しているITを、開発者の視点から見るように仕向けている。	
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。 	最終報告会において評価できる点をコメントに含める。	
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 レポートなどについても採点基準を示す。 	成績評価基準を提示している。	

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート

授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択):		人的資源管理 I・II 経営学部(他学部公開) 3年・4年 約400～500名 選択必修			
担当:		佐野嘉秀		年度/期: 2013年度/期: 春・秋	
学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> 映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 視覚的な例題・課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや図表を中心に、配布資料を投影するほか、適宜、パワーポイント資料を投影している。 	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料と板書中心であるが、パワーポイント資料の投影の機会を増やした。
	A-2. 探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する参考文献を配布資料に記載している。 	
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書を中心しつつ、配布資料、パワーポイント資料を組み合わせ、変化をつけている。／前回の授業の振り返り→本論→まとめという流れを基本としている。／論点を相互に関連付けて並べ、ストーリーをつくるかたちで講義を構成している。 	
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人的資源管理の基礎を理解することは、経営学の体系的な理解に貢献するほか、将来の実務やキャリアにも役立つことを初回及び折に触れて指摘している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の今後のキャリアとのかかわりをより多く話すようにした。
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ロールモデルの提示としてゲストスピーカや卒業生の講演を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人的資源管理は、将来、人事部で活躍する人だけでなく、後輩を指導するなど、多くの人の実践に関わる科目であることを初回及び折に触れて説明している。／管理する側の議論だけでなく、適宜、参加者が社会人としてキャリアを歩んでいくうえでの示唆も、各回の論点に即して指摘している。／早い段階で「採用」に関する授業を配置し、関心を高めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の今後のキャリアとのかかわりをより多く話すようにした。
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 日常的に使うシステムの話題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やアルバイトでの人のマネジメントに関わる話も例示として用いている。 	
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 講義の目的等を主要トピック毎に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業全体の目的(人的資源管理の基礎的事項を体系的に理解すること等)を最初に説明している。／各回について、論点を提示している。 	
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> プログラム、コンテンツ、模型など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 特にありません。 	
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	<ul style="list-style-type: none"> 期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身についたことを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験では、配布資料だけでなく、授業中に板書や口頭で説明した事項から多く出題することとし、その旨を学生に授業内で伝えている。 	
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営学部の受講生を念頭に、講義の中で、論点に関わる1～2年次配置の関連科目について言及している。 	
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特にありません。 	
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 レポートなどについても採点基準を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各期の最終回に、期末試験で評価するポイントを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験の間(質問文)の形式を示し、説明した。

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート

学習意欲の概念		概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択): 日本文芸研究特講・近世 文学部日本文学科(ただし他学部他学科公開)、1~4年、約50~60名、選択 担当: 小林ふみ子 年度/期: 2014年春学期						
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1.	知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	・映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 ・視覚的な例題・課題を提示する。	・古典籍や浮世絵の原本を見せ、手に触れさせている。／・挿絵入り教材を選択したり、人物・モノや風景を画像で提示したりしている。	
	A-2.	探求心喚起	知的好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	・応用課題(自由課題)を課す。 ・授業で説明する時間のないトピックなどについては参考文献を紹介する。	・授業内ではグループワークによって作品読解をさせている。／・学生にも読みやすい参考文献名を紹介している。／・最終レポートは授業内容だけでなくそれ以外の調査を必要とする課題を課している。	参考文献やオススメの作品は単に名前を挙げるだけでなく、内容や魅力を口頭で紹介するようにしたい。
	A-3.	変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？	・各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 ・期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。	各回の授業では前回のふり返り(約10分)→講義・解説(45分以内を目指す)→小刻みなグループワーク・全体共有のくり返し(30~40分)として変化を持たせている。／・深さよりも幅広さを重視し、1~3回に一度程度、取り上げるトピックやジャンル・作品を変えている。	
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1.	目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	・初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。	ゼミ選びの参考にできるよう1年生にも開講している(学科の方針)／近世文学以外に、文芸創作に関心のある学生のために、多様な表現方法に注意を喚起している(が、それ以外の学生のニーズは把握していない)	初回の授業で、科目履修のねらい・目的をリアクションペーパーに書くよう指示する。
	R-2.	動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	・その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ・ロールモデルの提示としてゲストスピーカや卒業生の講演を取り入れる。	教材そのものの面白さ・魅力を重視して選択している	
	R-3.	親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	・学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 ・日常的に使うシステムの話術を提示する。	高校時代の教科書に取り上げられている作品や(他の授業でも取り上げられる)有名な古典文学作品と関連のある作品を教材にする(『源氏物語』や『百人一首』のパロディなど)	
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1.	学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	・授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 ・講義の目的等を主要トピック毎に提示する。	・授業全体の目的を最初に説明している。また毎回、前回のふり返りとして理解すべき点を確認している(だけ)	・毎回の授業で各セクションのジャンル・作品の文学史的意義を確認する
	C-2.	成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	・プログラム、コンテンツ、模型など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 ・演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。	・グループワークの作品読解をなぞ解きやポイント探しの形式にして結果を発表することで、できた・見つけられたという感覚を得られるようにしている。／・リアクションペーパーにコメント・疑問点を書かせ、次回いいコメントを紹介したりいい質問に答えるというかたちを取って選ばれた感をもたせている	
	C-3.	成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	・期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 ・Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身についたことを実感させる。	・理解したことを簡潔にまとめる中間課題をセクションごと(2~3回に一度)課し、よい解答例を数名紹介する。	・自分のものと比較させ、何が足りなかったかを自覚してもらう。
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1.	内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	・応用課題(自由課題)を課す。 ・1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。	・発展的な関心をもった学生のために参考文献を紹介している。	・意欲があったら取り組んでほしい、というような応用課題を出す
	S-2.	外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	・報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 ・学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。	・グループワークの成果を全体で共有する際に、できるだけそのよさを見つけて誉めるようにしている。・中間課題の模範解答は学生の解答例から選んでいる。	
	S-3.	公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	・成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 ・レポートなどについても採点基準を示す。	・中間課題は模範解答とともに評価基準を説明している。／・最終レポートは学習支援システム上でコメントを付けてFBしている。	・今年度はより詳細な基準を示したい。

ARCSモデルに基づいた授業チェックシート（淡青色のセルを記載してください。）

授業科目、対象学科、学年、人数、(必修/選択):		人的資源管理論 経営学研究科 修士1年・2年(社会人大学院) 約10名程度、選択			
担当:		佐野嘉秀		年度/期: 2013年度/期: 春	
学習意欲の概念	概念の分類	設問	授業における対応事例	担当する授業における現状	今期授業における新たな取組
A ttention 注意 学生の関心を獲得する。 学ぶ好奇心を刺激する。	A-1. 知覚的喚起	知覚レベルの好奇心を喚起し、学生の興味を引くことをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> 映像クリップを適宜利用して興味を引かせる。 視覚的な例題・課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント資料を投影しているほか、同資料はカラー版で事前に授業支援システムに配置し、受講生がカラーで印刷・授業に持参できるようにし 	
	A-2. 探求心喚起	知的な好奇心を喚起し探求的な行動を引き出しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 授業で説明する時間のないピックなどについては参考文献を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業冒頭で「○○は××か」「どうして△△は□□か」などのかたちで、人事管理上の論点を5つ程度を提示し、論点への意見を参加者にまずきくことで、各回の授業への関心喚起をはかっている。／各スライドの議論に関連する文献を記載し、関心に応じて文献にあたるようにしている(それを奨励している)。／少人数授業の特性を活かして、質疑応答・議論の機会を多く設けている。／議論においては、実務上の問題関心に即した具体的な議論を奨励している。 	
	A-3. 変化性	学生のモチベーションを維持するために授業に変化をつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業では、説明→練習問題→演習を繰り返す。 期を通じての授業では、復習のみ回、外部講師による講演の回、外部施設見学の回を適宜取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2時限連続の授業であることもあり、講義中心の前半(6時限目)+課題文献の検討と議論中心の後半(7時限目)という構成とし、変化を持たせている。／講義形式のため単調となりがち前半においては、論点の提示→スライドを用いた説明→ひとまとまりの説明ごとの質疑応答・議論→本日の論点のまとめ、という流れを基本的にしている。 	
R elevance 関連性 学生の肯定的な態度に作用する個人的ニーズやゴールを満たす。	R-1. 目的指向性	学生の将来の目的あるいはゴールと授業を結びつけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業でアンケートを実施し、学生の将来の希望あるいはゴールを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文を作成するにあたり共通の基礎を習得する狙いがあること、授業のなかで様々な論点を知ることで修士論文のテーマ探索の参考にしてもらいたいことを指摘し、参加者に意識させている。 	
	R-2. 動機との一致	目的を持たない学生を含め、学生を授業に関与させるための動機づけをしているか？	<ul style="list-style-type: none"> その知識や技術を学びたい者にとって、本格的な基礎を学ぶ講義とする。 ロールモデルの提示としてゲストスピーカーや卒業生の講演を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回の授業等で、修士論文作成にとっても、人事担当者や職場管理者等としての人事の実践にとっても重要と考える基礎的な知識を提供することを指摘して 	
	R-3. 親しみやすさ	学生の過去の経験や興味と授業を関係づけているか？	<ul style="list-style-type: none"> 学生のこれまでの人生を振り返り、大学で学ぶ意義を考えさせる課題を課す。 日常的に使うシステムの話術を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実務で身に着けた知識を理論的に整理する場であることを指摘している。授業中には、取り上げる論点に関する身近な事例について紹介してもらっている。 	
C onfidence 自信 学生が成功できること、また、成功は自分たちの工夫次第であることを確信・実感するための助けをする。	C-1. 学習要求	学生に期待することおよび評価することを理解させているか？	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を説明する前に、それを理解・習得することで何がわかる・できるようになるのか、説明する。 講義の目的等を主要トピック毎に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業全体の目的を最初に説明している。／各回について、論点を提示している。 	
	C-2. 成功の機会	成功を経験する機会を学生に与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> プログラム、コンテンツ、模範など目に見えるもの制作することにより、課題への達成感を与える。 演習問題や課題によって、理解度・習得度を確認できる機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の議論を通じて、理解度・習得度を確認できる機会を与えている。 	
	C-3. 成功への自信	成功が学生の能力や努力によるという自信をもたせているか？	<ul style="list-style-type: none"> 期を通じて完成する課題を省察し、毎週の作業の積み重ねによって完成したことを認識させる。 Mastery Test等により、基本的な内容の修得について、繰り返し努力して能力として身につけたことを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題文献のレジュメ作成・報告を受講者に行わせている(分担制)。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の報告に対して、評価すべき点などはより積極的にコメントした。
S atisfaction 満足感 インセンティブによって達成を強化する。	S-1. 内発的な強化	学習者が内発的な興味を発展させるために新たに獲得した知識やスキルをできるだけ早く活用する機会を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 応用課題(自由課題)を課す。 1、2年で学んだ基礎的な知識を応用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学ぶ論点に即して、参加者の身近な事例に即して考え、議論させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例に即した議論の機会をより増やしてほしいとの要望を授業改善アンケートで得たので、そうした機会を増やした。
	S-2. 外発的な強化	学生の成功に対してコメントや賞賛を与えているか？	<ul style="list-style-type: none"> 報告会、コンテスト、eポートフォリオなどにより優れた作品を全受講生で共有する。 学生投票あるいは教員により推薦された優秀作品の発表会を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の課題報告・事例報告・その他の発言に対し、教員としての評価も含むコメントを適宜行っている。 	
	S-3. 公平さ	チェックリストやルーブリックによって学生を公平に評価しているか？	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準やルーブリックを示す。また、レポート、テスト等は簡単なコメントとともに結果をフィードバックする。 レポートなどについても採点基準を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価に関わる課題レポートについては、最終回の授業で発表させ、評価も含むコメントを行うことで、最終的な成績評価に納得性を高めるようにしている。 	